

ひき はく
曳博だより

2013.11



編集・発行：曳山博物館 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町 14-8 TEL 0749-65-3300 FAX 0749-65-3440

特別展

「壺坂観音霊験記」について

館長 中島 誠一



(会期)平成25年11月11日～12月15日)

壺坂観音霊験記は今年度最後の特別展のテーマである。壺坂と聞くとあのあまりにも有名なフレーズ「妻は夫をいたわりつ、夫は妻をしいつつ」「三つ違いの兄さんと」を思い起こされる方も多いと思う。直接聞いた記憶さえもないのに私自身なぜかこの二つを想起してしまう。文字通り私の体に文句とリズムが一体となつてすぐに飛び出してくる。前者は、浪曲(浪花節)「壺坂霊験記」の一節であり、盲目の浪曲師浪花亭綾太郎(なにわていあやたろう)の迫真の語りがよく知られている(らしい)。後者は浪曲でも知られるが、浄瑠璃「壺坂霊験記」の一節である。先般も三役修業塾の定期発表会(素義会)で不肖私とその解説をさせていただき、拝聴、その一節は私の中に新たに「刷り込み」刷新されたばかり。

浄瑠璃「壺坂霊験記」は、明治になってから作られた新しい作品で、奈良県高取町にある壺阪寺(南法華寺ともいう)のご本尊である十一面観世音



壺坂観音縁起絵巻(部分)

の功德を題材にしたもの。従来の世話物とは異なり内容は至ってシンプル。貧しい暮らしの中、夫の目の回復を願うけなげな妻と、疑心暗鬼に落ちた盲目の三味線弾きの夫の物語であり、最後は観音さんによって一度は失った命も蘇生し、目も見えるようになったというハッピーエンドの物語である。当時、荒れ狂う廃仏毀釈の風潮に意義を唱えるという高邁な思想が含まれていたにもかかわらず、人々の解釈は清く貧しく美しい当時の規範とすべき夫婦愛の方向に動いたようである。浪曲の一節がここまで浸透したのもその部分を強調したことによるのだろう。長浜の人たちにとっても壺坂観音霊験記は、平成二十五年の萬歳樓の演目で衣装の早変わりには記憶に新しい。とはいえ内容は徐々に変化を遂げつつある。けなげにひたすら夫だけをおもうお里が、それだけではない+(プラス)ユーモアが演技の中に含まれていたように思う。こうして古典は長浜曳山祭りの中で展開を遂げていくのだと興味深く観劇した次第である。

さて壺阪寺にはもう一つの霊験記「さよ姫伝説」がある。壺坂の村に住むさよ姫は、貧しくて父親の十三回忌をつとめることが出来ず悲しんでいた。そこに陸奥国の商人が十五、十六歳の女性を求めてきた。求めに応じてそのお金で父の菩提を弔ったさよ姫は、母を残し、陸奥の国へと向かう。そこでさよ姫は大蛇の生贄として代わりに自分が求められていたことを知る。決められた池の中嶋で待つと、やがて十丈(三十メートル)もある大蛇が現れた。しかしさよ姫がお経を読むと経典読誦と親孝行の功德により、大蛇は成仏を確信して歓喜、姫君を乗せて昇天する。

実はさよ姫が弁財天、大蛇は壺坂の観世音菩薩であった。このように末世であつても信心があれば二世安楽間違いなしと結んでいる。

この物語は、貴重な「壺坂寺縁起絵巻」として伝世しており、現在は奈良国立博物館に寄託されている。この内容は実に興味深い。というのはさよ姫が弁財天の化身であるという点である。ご存知のように弁財天は竹生島のご本尊であるが、もともと当地には浅井姫命（あざいひめのみこと）が鎮座し、水神として崇められていた。弁財天は仏教の水神であるがゆえに後世、天台宗系の僧が習合させ、祀りはじめたのである。厳島や江の島の弁財天は、この竹生島の影響を受けて勧請されたものである。もう一つ、浅井姫の神格は龍もしくは鯰なのである。もうお気づきになったとおもうが弁財天と大蛇が登場する壺坂寺縁起譚は、竹生島とも深い因縁を持っているのである。

特別展示では、明治の「壺坂霊験記」を長浜曳山祭のシーンと重ねて紹介するのは勿論のこと、さよ姫伝説、そして国指定無形民俗文化財として全国でも珍しい愛知県知立市の山車文楽「壺坂霊験記」の人形も併せて展示します。

ご期待ください。



山車文楽のカラクリ人形
(愛知県知立市)

曳山博物館の

展示保存環境について

学芸員 中山 芳章



博物館の持つ具体的な機能には、資料の調査・収集・保管（保存）・展示・社会教育などがあります。そして、当館としてその根幹を成すのは、実物の曳山や博物館の所蔵品、山組などからの寄託品です。そのため、収蔵展示する部屋がもつとも重要な場所だといえます。当館では、一階には展示ケースおよび曳山収蔵庫、修理ドック、二階には企画展示室、収蔵庫を備えています。そのほとんどは機器による二十四時間の温湿度管理を行い、できるだけ収蔵品に負担がかからないよう一定の状態を保っています。なお、温度は一般的な空調設備を利用していますが、湿度は特に厳密な管理が必要なことから、専用の加湿器設備を設置しています。また、事務室内から各展示室等の温湿度の状況を監視できるほか、アナログの温湿度計を設置し、定期的に状況を確認しています。

さらに、曳山収蔵展示室および収蔵庫には、一般的にはあまり知られていませんが、窒素ガスによる消火設備を備えています。これは、消火器やスプリンクラーによる消火方法とは違い、窒素を放出し、室内の酸素濃度を下げることにより消火を行うものです。なぜ消火できるのか？それは、通常空気中の酸素濃度は約21%ありますが、物が燃え続けるには15%以上必要であるといわれているため、それ以下になると酸素不足により燃え続けることが出来なくなるからです。では人体に危険はないのか？というと、これもありません。窒素の放出は、人体に重大な影響が出るといわれる酸素濃度になるまでに停止します。となると一番問題の収蔵品に対してどうなのか？これも問題ありません。

せん。消火器やスプリンクラーのように粉末や水をかけると収蔵品が傷んでしまいますが、窒素という気体を放出するだけなので、収蔵品に影響が出ることはありません。



当博物館の曳山収蔵展示室

また、展示ケース内では、展示品にダメージを与える紫外線の放射量を抑制した博物館・美術館専用の蛍光灯の使用や、展示資料に合わせて照度を調整したり、調湿剤を使用して湿度調整などを行っています。さらに、資料劣化の原因の一つである虫やカビを駆除するため、毎年一回ブンガンによる簡易燻蒸（くんじょう）を行っています。博物館では展示以外何をやっているのか、どんな仕事をしているのかわからないと思われるかもしれませんが、そうした展示品や収蔵品を適切な環境で公開・保存することも大切な仕事のひとつであることを知っていただければ幸いです。

毎年、学芸員を目指す学生の

実習を受け入れていきます！

博物館実習を終えて

(8月18日～24日)

同志社女子大学

北川 夏帆

一週間博物館実習を経験させていただきました。実習では博物館学だけではなく、学芸員の実務にも関わることができました。学校の授業では学ばないことを

教えていただき、考え、学び、私自身の成長につながる貴重な経験になりました。

今回の実習では博物館の社会教育活動と資料の保存・展示という2つの大きなお仕事の内容を中心に実習させてもらいました。

授業では博物館学芸員がいかにも多忙なのかについて知ってはいましたが、実際の現場でみると、本当に忙しく、あれこれ仕事を並行させながら進めていき限られた時間の中で工夫を凝らしている姿に感動しました。

博物館の資料化について伺った話で印象に残ったのが、新しいものを収集することがむずかしいということです。民俗資料の特徴でもあるのですが、今ある当たり前でたくさんあるものを大切だと認識されず保存されないことで、時を経て古くなり価値あるものになったのに残らない可能性があることです。このことは私自身が実際様々な資料整理をするなかで痛感しました。普段何気なく使っていて、溢れているものでも、時代が変われば希少価値がでます。そこに気づくことができるのか、判断できるかとても難しく、重大な仕事だと思いました。

実習を終えて、曳山博物館が長浜のための博物館であり、誇りに思う存在だということを感じます。日本には山車の展示施設は多く存在しています。しかし博物館という名前を持った山車の施設は決して多くありません。秀吉開基伝承をもつ長浜曳山祭の博物館をもつことで、祭りの後継者の自信の拠り所となる施設ができ、また市民がいつでも学ぶことができるようになりました。だからこそ、曳山博物館が博物館という名前で運営されていることを誇りに思います。地域の文化を守り、伝承していくことがいかに難しく、大切なことなのかを知ることができました。文化を守り伝承していくことは、お金や数字では表すことの難しい、かけがえのないのだと実感しました。

「北川です！女の子ですが男前になりました！」



で行われている社会教育活動や企画展に積極的に参加することで自分の町に対する知識が自信となり、心の拠り所になっていくということを学びました。一度の来館で満足するのではなく、何度も足を運び、学ぶ姿勢を大切にしていきます。

「こちら実習生の方から学ぶことが多々ありました。夏休み小学生対象企画「歌舞伎役者になってみよう」にも楽しんで参加してもらいました。ありがとうございます！」



台湾の大学院生からの寄稿

儀式的伝承と博物館の役割に

ついてのフィールドワーク

国立台北芸術大学博物館研究所 詹麗滿

私は台湾から来た国立台北芸術大学博物館研究所の大学院生です。平成23年(2011)から平成25年(2013)にかけて、滋賀県長浜市で二年連続して長浜曳山祭の期間にフィールドワークを行いました。日本の地域社会において私が特に感銘を受けていることは、祭りに関するコミュニティにおける世代伝承の仕組みです。現代社会では、民族あるいは民俗の伝統文化を伝承していく難題の一つはジェネレーションギャップという価値観の違いが挙げられます。このような困難を乗り越えて、地域社会において公共性の高い伝統的な行事やイベントを行い続けることは、大切なことだと思います。

長浜の伝統社会においては、三世代の伝承の仕組みが、四百年以上の歴史を持つ曳山祭が今日までに続けられてきたことの秘密であると考えられます。子供から老人になるまで、年を重ねながら継続的に祭りに参加し続ける経験は、社会生活を営む上で、同じ経験を同じく違う世代間で互いを理解する機会であり、世代間のコミュニケーションの役割を果たしていると考えます。長浜曳山祭を継続していくに当たり重要な点は、その継承者を育成すること、および長浜の住民に祭りの知識を教育することです。

21世紀に建てられた曳山博物館の役割は、現代社会でどのような教育的役割を果たしているのでしょうか？私は、博物館の存在と儀式的伝承との関わりが興味深いテーマと感じました。平成24年10月に、私は台湾の第五回博物館研究シンポジウムにおいて、博物館を教育的施設として捉える視点から長浜曳山博物館を例としてとりあげ、民俗文化が継承されるための博物館の役割について、論文を発表しました。曳山博物館の役割は、祭りに関わる人々を大切に、展示教育や民俗芸能の伝承活動などを通して、祭りの精神を地域の歴史や文化に結びつけ、次の世代に伝えることではないでしょうか。長浜曳山博物館の構造をみると、例えば展示収蔵庫や曳山交替式は、曳山に由来する地域社会への敬意のこもった保管や保存に工夫を凝らしています。それは曳山を所有する山組の伝統文化を尊重しているためでしょうか。さらに、陳列されている資料・写真・文書等は祭りに関わる人々への尊敬の念と感性をこめて展示されていると感じました。また、館内では曳山交替式にかかわる山組の方々と学芸員の方々の協力作業を見学することができ、関係者の方々が地域社会といかに密接な協力関係を作っておられる



さんばくん

のかが良くわかり、感心しました。長浜曳山博物館の管理・保存・展示・教育等の機能は、有形・無形文化遺産を守る使命を確実に果たしており、来館者を啓蒙し、適切な学習環境を与えられる民俗文化博物館の模範であると考えます。

この調査研究の期間中、たくさんの方々と出会えたことをとても感謝しています。特に、曳山博物館の皆様には調査のための撮影やインタビューなどで協力いただき本当に感謝しております。また、博物館のホームページでは、デジタル化された豊富な研究文献や資料、映像などが公開されており、とても助かります。これからも本テーマにおける修士論文の完成を目指して頑張ります。

※倉麗満, 2013. 博物館、儀式與傳承者之互動：以日本滋賀縣長濱市曳山博物館為例。載於王嵩山編, 想的與跳的：博物館中的教與學及其超越。臺北：國立臺灣博物館。(出版中)。

年間観覧券のご案内



曳山博物館では、随時年間観覧券の販売を行っています。ご購入から一年間、いつでも何度でもご入館いただけます。

- ◎個人券・・・一年間二,〇〇〇円(ご本人のみ)
- ◎家族券・・・一年間三,〇〇〇円(ご本人を含めご家族五名様まで)
- ◎法人券・・・一年間一〇,〇〇〇円(一回につき一〇名様まで)



★通常大人六〇〇円ですので、大変お得な券です。いつでも事務所にて販売しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。(TEL 65-33300)

11/18



歴史探訪会のご案内

聴く見る参る

奈良県 壺阪寺への旅

バスで行く!!

壺阪寺の観音様は澄んだ大きな瞳をされ、右に赤い玉を持った手が日摩尼手で眼を救う御手といわれています。古来から眼の仏様として信仰を集めてきました。明治になってから、夫婦愛をテーマにした「壺坂靈験記」が浄瑠璃、歌舞伎で大当たり。その後お馴染みの浪曲「妻は夫をいたわりつ、夫は妻をしたいつつ」で大流行になり、観音様の功德がより一層人々の間に浸透します。

今回は、次回開催予定の特別展「世話物の世界ー壺坂観音靈験記よりー」にちなんで、西国第六番札所壺阪山 南法華寺(壺阪寺)への旅を企画しました。この日は観音様の「ご縁日」。

お願いしましたところ私たちのために講堂にて住職の法話、本堂にて般若心経、観音経読誦の法楽をいただけるほか、寺宝の説明も頂戴できることになりました。どうか千載一遇のこの機会に奮ってご参加下さい。また、講演会「壺坂観音靈験記の世界」を聴いていただくと旅の面白さも増大すること間違いなしです。



(壺阪寺のお里・沢市の像)

※講演会は事前申込不要です!!

展示と行事のお知らせ



現在 在 月宮殿・春日山 展示中

11月10日 まで ◎特別展 開催中
「人々の救い 天神信仰」
菅原伝授手習鑑より

11月11日〜 ◎特別展
12月15日 「世話物の世界」
壺坂観音靈験記より

11月16日 特別展記念講演会(聴講料:無料)
テーマ「壺坂観音靈験記の世界」
講師:細田明宏氏(帝京大学准教授)

11月18日 歴史探訪会(奈良県 壺阪寺)
※参加料・事前申込必要

12月16日 諫鼓山・青海山へ展示替え
◎シリーズ干支「瓢箪から駒」

12月29日〜1月3日 年末年始 休館日

— 久々の曳博日より、最後までお読みいただきありがとうございます。今後は、曳山博物館の活動をより知っていただけるように、定期的な発行を心がけ、魅力ある紙面にしていきたいと思います。よろしく願います。



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

発行日:平成25年11月1日